

明日の発展のために

全力をつくす

議長 中山正賢

新年おめでとうとございます。希望にみちた昭和四十三年の新春を迎え、「今年こそは」と心に誓い、決意をあらたにしていただきます。

昨年は率直に申上げて船橋つくだに工場誘致の失敗、かんばつ対策、農業構造改善等文字どおり多事多難の明けくればに終始いたしました皆さんの町政伸展のために力一ぱいのご協力を賜わり、お蔭をもち混雑を回避することができました。町はいよいよ隆盛の一途をたどっています。誠に感謝にたえません。

しかしながら長洲町を中心とする県北部の新産都市建設の現状をみますと、他の地区にくらべ、あまりにも遅れている感じがいたします。

年頭に当りて

教育長 浮島 三代喜

ここに明治百年、昭和四十三年の新春を迎え皆さま方もとにも大なる飛躍と進展の年と致したいと念するものであります。

小学校時代よく新年の拝賀式に校長先生の訓話に「年々歳々花相似たり、歳々人々人相同じからず」という言葉を記憶してはいますが、本当に味のある心の糧となる言葉として私を支え、新年にはいつも憶い出してかみしめています。人間はいかに年輪は増しても、毎年々々反省の上で立って希望に輝き光明を求め理想とするところに邁進して行くものです。そこに人類の進歩と文化の向上が期待されるのであります。そのステップとなり跳躍台となり且つ人生の節(フシ)となるのが新年で

そのためには産業の動脈たる道路、港湾、農業構造改善事業の促進等の基盤整備を積極的推進すると同時に、教育並びに衛生施設等、町民の日常生活に直結する諸施設を整備し、産業の発展と町民福祉向上をはからねばならないと存じます。

集投入された年であったとも云えましよう。即ち近代給食センターの完成、六栄小の特殊鋼製プールの建設、腹栄中学校体育館の着工等々一年にこれだけの大事業を達成或は着手出来たことは画期的なことであり将来に歴史的なことと云つても過言ではないと思ひます。

これひとえに町当局、議会、それに全町民の方々の心からなる御協力、御支援の賜でありまして感謝に堪えないところであります。

然し当教育委員会の長期整備計画からすれば、数歩前進の実績を示したに過ぎません。尚残された重要事業として、六栄小の危険老朽校舎の改築、六栄小以外の各校のプール建設、各小学校の講堂の建設、長洲中学の特別教室の建設、精神薄弱、肢体不自由児を対象とする特殊学級の設置、社会教育としての中央公民館の新築、等々未解決の事業が山積して、しかも、さしあたり新年度におきましては、各般の教育的諸条件を総合的に判断して緊急事業として、六栄小の危険校舎の改築、それにプールの建設を予定し、既に町当局に申出でをなしている次第であります。町民の皆さんにおかれましては、前年同様ご協力下さいますようお願い致します。

以上の通り教育の諸施設は、驚異的速度をもって、充実整備されてはいますが、然しこれ等は教育の最終目的ではなく、児童生徒の全人的健全育成のための一つの効果的な施策であり、手段に過ぎません。教育の主体は飽くまで教師その人であり、教師にその人を得ることが如何なる施設を完備することよりも最重要であることは申すまでもありません。活潑自在の鍵は教師の手中にあり、教師こそ最大の環境であり、最高の道徳でありましよう。

明治百年、維新回転の主原動力は吉田松蔭先生の門下生によって断行され、しかもそれが数

議会としては過ぎし任期前半を謙虚に反省し、現実を直視し、明日の発展のため全力をつくし町民各位のご期待にそまよう努力する決意であります。

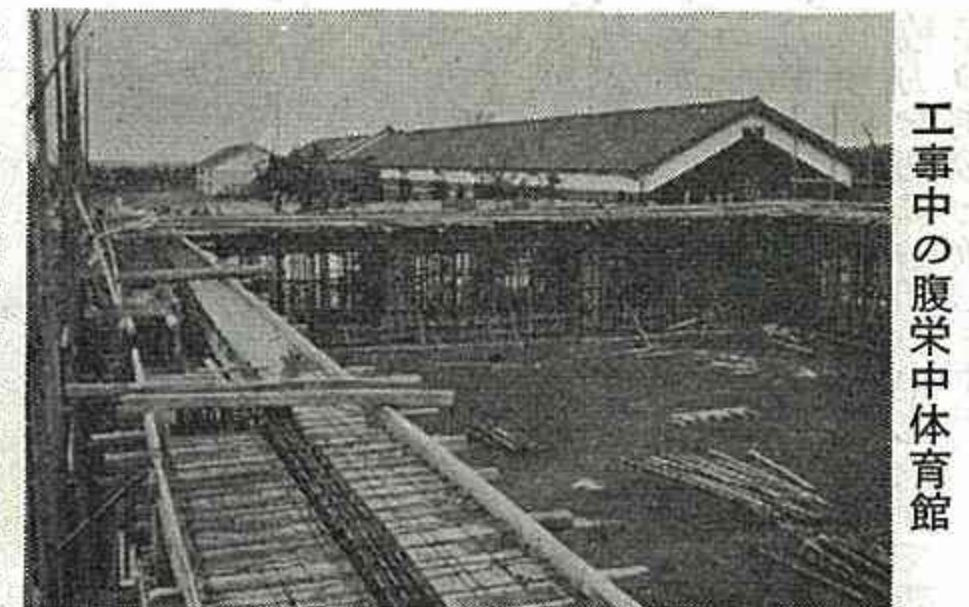
どうか、皆さんのより一層のご理解とたゆまざる、ご協力をお願いして新年のごあいさつと致します。

この事業は、予算規模も大きい文教施設国庫負担事業であるから①配置計画、②平面計画、③建築構造、④設備内容、⑤設計および施工業者の選定等慎重に検討する必要があるため、町長の諮問機関として、建築委員(町長部局から三人、議会議員から十人、教育委員から四人)当該校長およびPTA会長計十九人を設置して八月八日から九月二十九日まで四回の会議を開き、前記①から⑤について慎重に検討し、その間他校屋体の視察も行ない、設計を熊本市文化建築社に委託し、これに基づき建設業六社(長洲三、玉名二、荒尾一)の指名競争入札により荒尾市佐藤建設と工事費一五八四万円、工期を十月二十一日から四三年三月六日までとして契約した。

建物内容は、延べ面積八〇〇平方メートル(体育室二九、九八平方メートル、ステルジおよび控室七二平方メートル、教室、更衣室、教員室、玄関が五〇平方メートルの中にあり、二階ギャラリー一八〇平方メートル

の卓球練習場がある。(鉄筋コンクリート柱と同が梁の上に日本技研の責任施工によるゲビオン鉄骨造り、屋根は長尺カラー鉄板で葺かれ、その下に野地板、下葺ルーフィング、天井材として木毛板を使用し、音響効果に注意を注いでいる。床はゆすのフローリング張りである。現在基礎工事を終り鉄骨組立て工事中である。

なお、財源内訳は国庫負担金六一四万円、起債五六〇万円、一般財源四八六万円計一六六〇万円となる。(文責千年)



工事中の腹栄中体育館

このことは喜ぶべきことかも知れないが、反面日本も自動車交通が増し殺人的なものになってきたとも言えよう。このため道路行政面では道路整備が強く要求されてくる所以である。

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「あなたは、初めての選挙でうれいでしょうけど、お母さん、はもう……それに、政治のことって、まるっきりわからないうわ。つまり、やばいと思うわ」

「いい加減に投票するのってよくないけれど乗乗するのはいけないうわ。つまり、やばいと思うわ」

これから益々多くなるであろう道路の舗装について記すことにする。舗装には次の種類がある。

一、高級舗装
我々は俗に本舗装と呼称してしているが、これは次のような条件に従う舗装である。

二、簡易舗装
簡易舗装とは、道路構造令又はアスファルト舗装要綱に定められた規程によらない簡易な構造の舗装であって、通常表層および路盤から構成される表層の厚さは一般に三〜四層程度の舗装である。

三、表面処理
これは防塵処理(防塵舗装と俗に言っている。)よりやや程度の高いもので、道路のほりや泥水の飛散するのを防ぐ目的で路面を瀝青材料と骨材によって処理したものである。

四、防塵処理
これは表面処理が路面を骨材

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「あなたは、初めての選挙でうれいでしょうけど、お母さん、はもう……それに、政治のことって、まるっきりわからないうわ。つまり、やばいと思うわ」

以上が舗装の種類であるが、この舗装を行う中で表層工事として混合式(加熱式工法、常温式工法)又は浸透式(加熱式工法、常温式工法)とがあるが、これらのいずれを採用するかは路床の強度、車両の通行量、費用等を考慮して決めて行くことになる。尚ちなみに本年町が実施した舗装は簡易舗装であるが、駅通り旧県道は密に表面処理であって舗装とは言わないものである。

次に昨年度実施した町道舗装工事につき記しておきます。本年度は長洲港停車場線(出町橋から出町踏切迄及び今町橋から旧県道まで)と磯町停車場線(中央公民館十字路より県道まで)の舗装を実施したのであるがこの延長は三八四米、舗装面積二、一三〇平方メートル(平均舗装巾五、五米)路盤工十層、表層四層厚としその両端は一部路盤では防塵舗装(梨密)に表面処理で舗装と言われない。)を行

この面積が、六五八平方メートルである。又これに要した工事費は二〇〇万円であるが常温ブランド混合式を採用した。

尚この舗装に伴う側溝改良等の附帯工事費が五八一、〇〇〇円で合計二、五八一、〇〇〇円の工事費となっている。

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「あなたは、初めての選挙でうれいでしょうけど、お母さん、はもう……それに、政治のことって、まるっきりわからないうわ。つまり、やばいと思うわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

腹栄中学校

屋内運動場進捗中

(三月竣工予定)

音響効果に意を注ぎ

腹栄中学校屋内運動場の新築事業は、町当局に申出でをなしている次第であります。町民の皆さんにおかれましては、前年同様ご協力下さいますようお願い致します。

建物内容は、延べ面積八〇〇平方メートル(体育室二九、九八平方メートル、ステルジおよび控室七二平方メートル、教室、更衣室、教員室、玄関が五〇平方メートルの中にあり、二階ギャラリー一八〇平方メートル

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「お母さん、今度の選挙こそ投票しましょうね。大事な権利ですもの。使わなくちゃもったいないわ」

「ある母親と娘の会話から」

物価の値上がり……あなたは何かありませんか？

「お母さん、政治のことってわたしには関係ないことだしむずかしくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母さんだけじゃなく、農家の主婦

も、真剣に考えて、この人と思う人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずかしくて、お母さんには、さ

っぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

さんだけじゃなく、農家の主婦も、真剣に考えて、この人と思う

人に投票しなさい……」

「でもね、政治のことってわたしには関係ないことだしむずか

しくて、お母さんには、さっぱりわからないわ。それに、こ

う忙しいから、勉強するヒマもないし、面倒くさくなるのよ。お母

乳幼児同伴の学習 子供の性格三才頃まで形成

長洲家庭教育学級

今日ほど家庭教育が重視されることはない。マスコミの普及に伴いあらゆる出版会社から、子供のしつけに対する本が續々と発行され、それを熟読しながらも、青少年非行化が激増するのは果して何が狂っているのか。

それは親の育成態度が大きく影響する。テレビ・ラジオ新聞等報道機関で知識を豊富にするのは好ましい。しかしこれを一般的知識としてピリオドを打つかどうかは自問自答し、子供に密着した親の指導とテクニックを意図的に積み重ねるかどうかで二分されると思われる。

そこで文部省委嘱四地区(六栄、腹赤、長洲、清里)の一つ長洲家庭教育学級が三才児未満の幼児をもつ保護者を対象に、しかも子供も同伴で、保育全般にも力を傾注し、一流大学教授陣をお招きして、話し合い学習が展開されているのは県下でも珍らしいケースと思う。

人の性格は三才で形成されると学者間では言われ、いかに乳児期が大切かを学級生は痛感している。根本は家庭内の円満(愛情)が先決条件である。好ましくない親の態度として

- (一)放任型(ほったらかし)
- (二)溺愛型(かわいがりすぎ)
- (三)盲従型(要求不満)
- (四)不一致型(親子間、父母間等のすれちがい)
- (五)干渉型(世話過剰)
- (六)厳格型(きびしさ)
- (七)期待過剰(過大な期待)
- (八)虐待型(過干渉)
- (九)矛盾型(一貫性の欠)
- (十)不安型(いら〜)

等があげられる。

次に好ましい親子関係のあり方はどういふものだろうか。誰しもが望む、よい親になるのはどうしたらよいだろうか。

これは具体的な工夫で、自分で道を切り開く他はない。要するに心構へと態度と言えよう。この工夫はそれでは、しつけと云うのは一体全体何才頃迄しつけられるのだろうか。

生後乳児は「睡眠」「食欲」「排出」作用で、ごく自然的行動生活の循環、物が見え、音が聞きとれ、まだ思考力はないがまねることを覚え一段／＼と知恵をふやす。この時期が最もしつけに大切である。

ことわざに「鉄は熱いうちに叩け」と言われる様に、型を自由自在に変形することができ

母親は子供に乳を与える時は安らかな感情で、安定感を与える。与える時は他の事で感情的にならないよう。

よく農家では手不足の為、乳飲ませ時間さえやまわしい家庭になれば姑より言われる。母が乳を与える時は周囲の人の思いやりが必要、又離乳の際(突然授乳中止)感情的刺激を与え、体の姿勢は自然の型で血液循環をよくし子供の発育を守る。空気は新鮮な空気、寒冷時は器具使用の為要注意、二才になれば歩き始め言葉の数は三〇〇

に没せんとして涼味漸く至り、三空寺の銀杏には宿る雀の声とかまほしき頃、通りかかると喜十郎君の威風凛々たる姿が、その中の一人は身を改めて最も鄭重なる言葉で言った。

「この町で一番賑やかな所はどこですか。」と問われた時に、喜十郎君は「賑やかな所といえはまずここである。然しながらここですといえれば長洲は僅かこれ位の所かと思われれば、長洲町の品位を落とすのみならず、ひいては将来の発展に關する考えた彼は宝町の方向を指して曰く、「この通りを下手へ下りたれば賑やかな所があります。」と答えた。旅人等は大笑して彼の親切を感謝して勇んで西新町の方へ立ち去った。約一時間経たぬかと思ふ頃、旅人等は不審の顔をして、又喜十郎君の店へやってくる。大分探しましたが、どうも分りませぬから、ご苦労ながらご案内をお願いします。」さすがの豪傑喜十郎君も思ひがけない事件が起つたので、どうしてよいか分らず胸下より流れる汗は滝の如く、

老後の楽しみ 国民年金制度に取り残されぬように

組織の協力が必要

国民年金法が施行され拠出年金の保険料徴収が実施されて八年目を迎える社会保障制度の大きな柱としてたくましく成長し、私達は将来皆さんの豊かな幸せな暮しを送りたいと願っています。国では国民皆年金制度をつくり、国民は必ず国の行う年金制度公的年金のどれかに加入しなければならぬことになりました。即ち会社就職したら厚生年金、役所や学校等に勤めれば共済年金に加入することになります。国民年金は、農林漁業の従事者、中小企業や自由業などの自営業者やそこで働く人です。サラリーマンの奥さんは

任意加入が出来ません。国民全部が老後にはこぞ年金を受けられる時代が訪れるわけですが、しかし老後のことまで考えが及びません。また元金なときは病気がケガをしたときのこととは全く考えないものです。又年をとってから身体障害や母子家庭になってからバタバタしても間に合いませんので国民年金をお互のことで地域内にある町内の納入組織によってこの制度を守り育て年金の保障を受けられない人が一人でもないよう将来、向う三軒両隣の人が全部年金を受けてニコニコしているのに一人だけ取り残されて

郷土の遺蹟を訪ねて

若き学徒の集い 翠汀会

◎学生のついで誕生
明治三四年(一九〇一年)長洲町から高瀬や熊本等の中等学校以上の学校にいたった人たちが翠汀会という若き学徒のついでが誕生した。理想と意気に若い血脈を燃やす当時の若人たちは、お互いの精神的団結をはかり、長洲町の改善を目標にしてこの会をつくった。

翠汀会は通常会員と特別会員からなり、通常会員は在学生、特別会員は卒業生や中退者がなっていた。入会するためには、会頭に入会願を出し、二人の保証人の連署で誓約書を出し、入会するという厳格な組織になっていた。初代の会頭は分らないけれど、明治三六年の会頭は稲田会頭、副会頭は吉田氏、学芸部長は米村氏、運動部長は山本氏、江崎氏は学幹と記録に残っている。通常会員の会費は毎年五拾銭、特別会員は寄附金となっている。

奇談見聞録



機関紙「汀の光」

諸君が停車場より西へ数丁向えば、出町という所に達する。ここには警察署がある。新町を経て花屋の角に至るとする二、三間手前に理髪屋がある。これは田添喜十郎氏の経営にかかり、主人喜十郎氏当町名望家の一人である。もとより翠汀会の偉大な功績の一つは機関誌の発行である。機関誌の名称は、初めは「玉の光」で後に「汀の光」と改称し、毎学期発行するのを決めていた。

機関誌は駅道りの医師黒田健児氏が大切に所蔵されていた。十冊を数年前公民館に寄贈されたので、現在公民館に大切に保存している。

内容は、会員が毛筆で翠汀会の野紙に書いたものを厚紙で製本し、脊文字は金ばくで入れた立派なものであり、六十年余を経過した今でも立派に保存できる位である。

その編集の内容も又見事である。大体において、目次、序文、論説文、新詩及歌、叙事及記事文、翠汀会記事の順序になっており、その中に絵や写真がたくさん入れてあり、バラエティに富んだものである。その中の一つを紹介しよう。

ある夏の日の夕刻、日西山美男子で小町美人も素足で逃げ出す程の容姿である。職業はと見えは理髪師は勿論論湯も売れば角力もとるが、土俵に雲見山という所とどういふ商売にはならぬ、給湯も一ぱい五厘ではさほどの利益もないものと思われ。近頃は専心理髪業に勉勵している話である。(林田)

県知事表彰

第五回 県子ども大会

第五回 県子ども大会開かる

第五回熊本県子ども大会は、秋晴れの十一月二十三日正午から会員二千五百人の参加を得て熊本市九品寺の尚綱高校体育館に於て盛大に実施された。長洲町子ども会からは七十名の多数がこれに参加した。終始行儀正しく他の市町村の子ども会員にくらべて優秀であった。大会は熊本市春竹小六年東広二君の力づくで開会のことばで始まり、知事代理渋谷県民生労働部長の挨拶、石坂熊本市長の「良いことをするに勇気がある」「永田県教育長の「手をつなぐ良い強い子元氣な子」のあいさつがわりのためまくがさがその紹介があり、つづいて県内十六団体の優良子ども会の表彰が行なわれた。玉名郡内では長洲の鷲巣子ども会がただ一カ所知事表彰を受けた。(鷲巣子ども会)

さびしい思いをする人がないようにはどうしても地域連帯の考えにたつた組織の協力がぜひ必要です。成人に達した人は加入されないようにはいたしましよ。

有利な国民年金
老令年金月五〇〇〇円(夫婦一〇〇〇〇円)六十五才になったとき(二十五納付済の場合)
障害年金月五〇〇〇円(二級程度の場合)ケガ、病気で日常生活が充分でない人など(一年以上納付済が必要)
母子、準母子年金 月五〇〇〇円(子二人の場合)夫が死亡して十八才未満の子を養育しているとき祖母が孫を養っているとき

更生保護に力を傾注
保護司BBS更生保護婦人会
新春のお喜びを申し上げます。にも角にも、晴れ着と無心に遊ばす子供達に笑顔で見守る親心と「一年中此の様な社会が出来たらな」と思った。私達保護司と、BBS会、及び更生保護婦人会は、社会の片隅で泣く人々の為に、本当に縁の下の力持の苦勞多くに報れない、更生保護の地味な仕事に従事し一人でも更生する様、又非行に走らない様念じて居るのです。

なく、婦人会、一般有志等で構成され、地域における子どもたちの親睦融和を目標に、昭和三十六年度谷信雄氏、二代目昭和三十七年度馬場正光氏、三代目昭和三十八年度野村明吉氏、四代目、昭和三十九年度城戸主氏、五代目、昭和四十年、四十二年度服部有氏、四十二年、四十四年、四十六年、四十八年、五十年、五十二年、五十四年、五十六年、五十八年、六十年、六十二年、六十四年、六十六年、六十八年、七十年、七十二年、七十四年、七十六年、七十八年、八十年、八十二年、八十四年、八十六年、八十八年、九十年、九十二年、九十四年、九十六年、九十八年、九十九年、百十年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百七十年、百七十二年、百七十四年、百七十六年、百七十八年、百八十年、百八十二年、百八十四年、百八十六年、百八十八年、百九十年、百九十二年、百九十四年、百九十六年、百九十八年、百九十九年、百一十年、百一十二年、百一十四年、百一十六年、百一十八年、百二十年、百二十二年、百二十四年、百二十六年、百二十八年、百三十年、百三十二年、百三十四年、百三十六年、百三十八年、百四十年、百四十二年、百四十四年、百四十六年、百四十八年、百五十年、百五十二年、百五十四年、百五十六年、百五十八年、百六十年、百六十二年、百六十四年、百六十六年、百六十八年、百

長洲町共同募金運動は

目標額を超える好成績

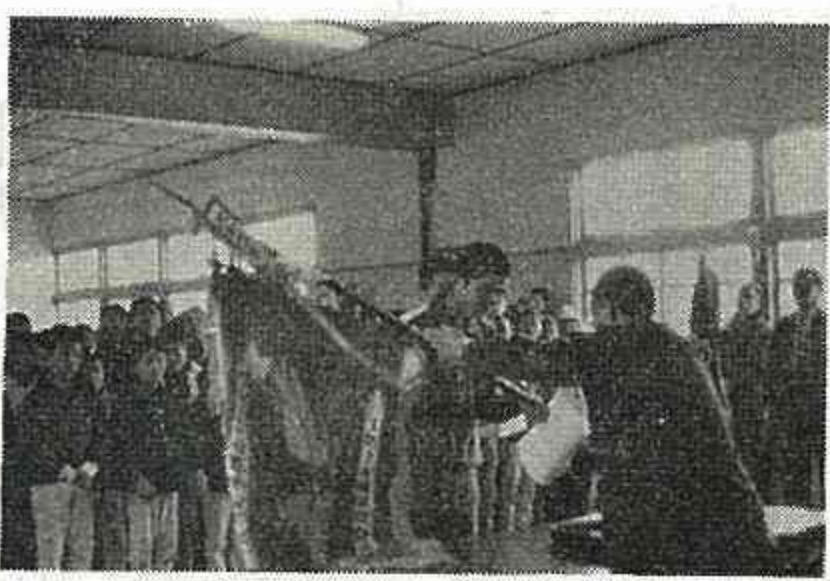
地域福祉のため充足

共同募金は国民たすけあいの精神運動でもあり、又民間運動として公的制度の手の及ばない問題に対処して行くところに、この事業の妙味があるわけであり、又この共同募金の配分を別途に寄附金の募集すること外に、共同募金としてはその施設の運営について必要となつてくる寄附金の最低需用額を満たす程度の額を配分する責任を課されていくと考えねばなりません。

こうした関係で各県の社会福祉協議会がその地域の福祉に欠ける状態を調査して、総合的な福祉計画を立てますが、この意見を聞いて共同募金の方では配分計画を事前に公表し、又これに基づいて募金計画をたてるわけでありです。

本年度の熊本県の共同募金の配分計画の目標額は四、五〇〇万円です。その内訳をあげると、取寄施設(二四)六、五〇〇万円、福祉団体(一八)二、八〇〇万円、地域福祉(一一)二、九〇〇万円、共同募金運営費(県、市郡支会町村分会)六、二〇〇万円となつております。

これに対する募金目標額も四、五〇〇万円となり、玉名郡の目標額が二、二七〇〇〇円、長洲町の目標額が二、三三〇〇〇円となつておりますが、長洲町では農業干害の激しい地区の一部を除いては全地区予想以上の募金成績が



沖洲子 - ム優勝

- 七位 西荒神 四十六分一秒
八位 上宝 四十六分五秒
九位 大明神A 四十六分十七秒
十位 宮崎 四十六分十八秒

地区館だより

清里校区老人会

伸生会

十大思い出

今流行の十大ニュースにならつて、私達清里校区の老人クラブ(伸生会)の今年の十大思い出を書き並べて見よう。

- 一、新年の総会
二、成人教育受講(一月より六回)
三、建国祭を祝ひ校区の総大会
四、島原旅行
五、ぼんおどり
六、町の敬老会を祝うための踊り出演
七、長洲町老人クラブ連合大会
八、清里校区運動会参加
九、長洲町全老人クラブの祝賀

右の他にもまだ沢山あるが、さしより十大とした。その中で、特に、思い出の深い出来事を二、三拾つて見よう。

反省会

先づ、建国祭と名は変わつてもなつかしい紀元節を祝つて第一回の清里校区の総会のことである。梅田駅通り、建浜と老人クラブ全員が学校に集り、君が代をピアノに合わせてうたい、明治をしのび、若い時代を思い出し、おそかに始まった。

来賓の方々の祝辞はみんな老人への激励と末長い幸を望むとのお言葉でただただ感謝のみであった。講師はお頼みしなかつたが、各部落より一人ずつ所感をのべた。梅田の島田さん建浜の高野さんのお話は私達老人の心がまよと、余生を有意義に暮そうとの切々たるお話で、今も心に残つて居る。駅通りは茂村が連続してテレビに発表された。中、高校生の親孝行について、意見、又、青年、娘達の結婚後の親との別居、同居に関する考えをメモしていたのを披露し、私の感想をのべた。そして、手作りの中食に舌つつまを打ち、レクレーションに手をたづき、腹をよぢらして楽しんで最後に「雲にそびゆる」の唱歌をうたつた時は、思わず目頭が熱くなった。有意義な日

年末年始の

交通事故防止

本年こそはゼロの年に

ルールを認識・厳守

人間は忙しくなると、とかく目先のことにばかり気をとられて大事なことを忘れがちです。車両は急激に増加して活発に動きまわります。まさに危険状態に包囲されていると云えます。お互いの生命と家庭の平和を保持し、幸福な新年を送るために、そして事故防止に実践すること以外に方法はないことも認識していただきたいのです。

一、飲酒運転の絶滅

年末年始は酒の季節でもあります。たとえ一杯でも酒をのんだら絶対に車を運転しないことを厳守して下さい。又車を運転する人には酒をすめないこと。酒をすめた人も共犯で処罰されます。

二、無免許運転の禁止

免許をもたないものが車を運転するとどんな結果になるか。考えるだけでもぞつとします。車の所有者管理者は、無免許者がみだりに使用しないように鍵の保管を厳格にお願いします。

三、道路環境の整備

道路は公共の場所であり、一般交通の用に供するためのものです。商店の無用の駐車ひさしのつきだし、自転車や空箱の放置などは交通の妨害となつて事故を誘発します。お互いの周囲をよく見て、道路は広く美しく使うようつとめましょう。

自衛隊だより

海上自衛隊の砕氷艦「ふじ」は十一月二十五日十四時第九次南極観測隊を乗せ、盛大な歓迎を受けて東京港を出発し、総航程約二万二千五海里におよぶ壮途につぎました。皆様と共に航海の安全と極点調査等の画期的な今次観測の成功を祈りたいと思つております。

砕氷艦「ふじ」に

当町出身者乗組員 高四十三三年四月二十三日帰国の予定です。(ひのくににより抜す)

十二月を期間として実施されたが、住民の善意による金品の集積実績は次のとおりである。尚この配分をうける対象世帯については民生委員各位の調査協力を得て決定したものである。本運動に参加奉仕された方々又協力された人々に対し紙上を借りて深く謝意を表します。

成人おめでとう!

Table with columns for region (長洲地区, 六栄地区, 腹赤地区, 清里地区) and gender (男子, 女子), listing names and counts.

昭和四十三年の成人式は、この十五日に行なわれるがその数は昨年を大きく上まわり次の通りになつて居る。

長洲町歳末たすけあい運動は長洲町社会福祉協議会、婦人会、駐在員会、小中学校の共催により「ふじ」乗組の本県出身者三名中、次の人は当町出身者です。

「みんな揃つて楽しいお正月を」 長洲町歳末たすけあい運動は長洲町社会福祉協議会、婦人会、駐在員会、小中学校の共催により「ふじ」乗組の本県出身者三名中、次の人は当町出身者です。

「お正月を」 長洲町歳末たすけあい運動は長洲町社会福祉協議会、婦人会、駐在員会、小中学校の共催により「ふじ」乗組の本県出身者三名中、次の人は当町出身者です。

先月号、二マン、共同保健計画推進協議会委員メンバーの中で「歯師及び歯科医師」と記載して居るのは「医師及び歯科医師」のミスをしたのでお詫び致します。

消防分団へ寄贈

十一月十八日上沖洲藤本朝雄様より第九分団(上沖洲分団)「故松下松蔵氏」の二〇周年記念として二万円寄贈された。

社協へありがとう

長洲町社会福祉協議会へ事業資金の一端として香典返しを寄贈。松高亀太郎殿死亡による香典返しを松高常雄殿より。中島政喜殿死亡による香典返しを中島正美殿より。浜北ミツキ殿死亡による香典返しを浜北隆一殿より。竹下マル殿死亡による香典返しを竹下竹次殿より。角正女殿死亡による香典返しを角静夫殿より。上田明生殿死亡による香典返しを上田伊佐子殿より。浜田カタ殿死亡による香典返しを浜田隆志殿より。野畑敬之介殿死亡による香典返しを野畑日吉殿より。木原モジウ殿死亡による香典返しを木原精一殿より。徳田勝美殿死亡による香典返しを徳田ヨシ子殿より。木下ナツ殿死亡による香典返しを木下恵市殿より。宮田秀殿死亡による香典返しを宮田定殿より。城戸哲雄殿死亡による香典返しを城戸時蔵殿より。松田タマ殿死亡による香典返しを松田一喜殿より。蓮尾嘉治殿死亡による香典返しを西島三男殿より。長本三義殿より交通安全協会表彰で受けられた金一封を寄贈されました。

寺本三代次殿死亡による香典返しを上野弓雄殿より。木山哲郎殿死亡による香典返しを木山太殿より。福島さだえ殿死亡による香典返しを福島能登殿より。中山実殿死亡による香典返しを中山健一殿より。木山サダメ殿死亡による香典返しを木山倫太郎殿より。

先月号、二マン、共同保健計画推進協議会委員メンバーの中で「歯師及び歯科医師」と記載して居るのは「医師及び歯科医師」のミスをしたのでお詫び致します。

先月号、二マン、共同保健計画推進協議会委員メンバーの中で「歯師及び歯科医師」と記載して居るのは「医師及び歯科医師」のミスをしたのでお詫び致します。

先月号、二マン、共同保健計画推進協議会委員メンバーの中で「歯師及び歯科医師」と記載して居るのは「医師及び歯科医師」のミスをしたのでお詫び致します。

先月号、二マン、共同保健計画推進協議会委員メンバーの中で「歯師及び歯科医師」と記載して居るのは「医師及び歯科医師」のミスをしたのでお詫び致します。